

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

“許せない東労組の人権蹂躪・三鷹電車区事件!”

「三鷹電車区で何があったのか!」

JR連合は今、シリーズ「検証・浦和電車区事件の真実」をホームページ上で展開しているが、その1年前に浦和電車区よりもひどい東労組による人権蹂躪があった。その被害者・佐藤久雄さんの当時の日記から再現し、すべてのJR東日本社員の皆さんに事実を訴えたい。それは、規律ある職場秩序を確保し、社員がお互いに信頼し合い、安心して働ける職場を築くためである。

第8回 「週刊現代」の記事から

<2006年7月24日発売号> (オンライン有料購読にて入手、一部要約抜粋)

「裏切りモンは辞めちまえ」

ここに一本のビデオテープがある。ビデオは、佐藤氏が出勤する場面から始まる。三鷹電車区の門扉の前で、佐藤氏を待ち構える十数人のJR東労組組合員。佐藤氏の姿を見つけるや否や、一斉に罵声を浴びせる。「この野郎」、「オメー、黙ってんじゃねーぞ」。

当時の三鷹電車区のJR東日本社員は約230人。うち約180人がJR東労組で、JRグリーンユニオンは佐藤氏ただ一人。ロッカー室に入った佐藤氏に、再びJR東労組組合員の罵声が浴びせられる。「オイ、聞いてんのかよ、黙んなよ、オッサン!」、「ボケっ! どうせどっちにもいい顔してんだろ!」。その言動は到底、一部上場企業の最大・主要労組に所属する社員のものとは思えない。まるで「チンピラ」のそれである。佐藤氏が、悔しさを滲にじませながら当時の様子を振り返る。「着替えの時まで5~6人がしゃがみこんで取り囲み、パンツのなかまで覗き込む。『お前、裏切りモンなんだから、辞めちまえよ』と、鼻の先まで顔を近づけて言ってくる。『自転車使うな! トイレも使うな!』と怒鳴られる。『それらは全部、JR東労組が会社から勝ち取ったもので、JR東労組を辞めたんだから使う権利がない』と言うのです。若い組合員も、平気で『久雄よお』と、私の名前を呼び捨てにしていました」そしてビデオには、JR東労組が、佐藤氏だけでなく、われわれJR東日本利用客の「安全」までも脅かしているという決定的なシーンが記録されている。制服に着替え、電車に乗務しようという佐藤氏。その横に張り付くように、数人のJR東労組組合員が追いかける。佐藤氏が、新宿駅から乗務し、電車の運転席に座ると、彼らも先頭車輦に乗り込み、運転席の真後ろに陣取るのだ。「そして彼らは運転席の後ろの窓に張り付いて、『この野郎、こんなところでブレーキをかけやがって』、『ヘタクソ、危ねーな』と私に聞こえる声でプレッシャーをかけ続け、動揺させる。それも一度や二度ではありません。お客様の前でも平気でした。乗務前、課長クラスにあたる『管理者』と点呼をする際も、彼らは私を取り囲んで騒ぐ。当然、点呼にはならず、大事な行路の確認もできぬまま、乗務せざるを得ず、乗務中は事故を起こさないと、不安で仕方ありませんでした。彼らの目的は、私に事故を起こさせ、組合だけでなく、会社まで辞めさせることだったのです。『組織防衛』のためなら、お客様の安全を脅かすことなど平気なのです」(佐藤氏) 驚くべきことに、嫌がらせをしている彼らは、佐藤氏と同じ運転士なのだ。本来、乗客の「命」を守るべき運転士が、組合という「組織」を守るために、同僚に執拗に嫌がらせをし、事故さえ誘発しようとする。これが「究極の安全をめざして」と公に謳っているJR東日本の実態なのだ。

(次号に続く)